

一緒に体験！自慢のフィールド（安曇野）

■外に飛び出した「大集合」企画

「年に一度、環境保全に関心のあるたくさんの方々に集まっていただき、活動発表や情報交換をしたり、お互いの横のつながりを確認したりする場を提供したい」ということから始まった「市民大集合」企画です。今年度は通算5回目の開催となりました。これまでは環境保全研究所飯綱庁舎を会場にしてきましたが、2014年の大集合は長野市飯綱高原から外に飛び出し、そのスタイルを一新してみました。

「活動団体の皆さんが輝くのは、やっぱり現場だよね～」という思いで、日頃実際に活動をされている自慢のフィールドを訪問し、そこで開催することにしました。今回会場とさせていただいたのは、安曇野市にある長野県烏川渓谷緑地でした。

■午前の森の散策

10月25日、美しい秋空が開けた土曜の朝10時に、烏川渓谷緑地「森林エリア」に約40名の参加者が集合しました。はじめの午前中の2時間は、森の中の散策です。入り口に一步足を踏み入ると、美しいコケに覆われた柔らかな散策路が現れます。そろそろ里の紅葉が始まった頃で、森の中は爽快な空気が満ちていました。

ここで活動をされている烏川渓谷緑地市民会議の方々に、これまでの活動の経緯や、森や植物の特徴、そして活動の成果等について伺いました。市民

会議植物班の村田 寛さんからは、手入れがされていなかった約10年前の森がどういう状況であったか、そして、遊歩道を通し、森に手を入れていく中で、植生がどのように変わってきたのかなど詳しく説明していただきました。

途中では、エリア内にある一本の杉の木の皮をはいだ犯人について皆で議論をしたり、今の時期は休眠中で姿のみえないカタクリについて春の調査の様子をお聞きしたりしました。行く先々で、さまざまな質問も飛び出します。事前の打ち合わせでは、「森林エリア」は広いので午前中の時間内に半分くらいは歩けるだろうかと相談をしていたのに、結局お昼までぐるりと一周を歩いてしまいました。さすがは、普段山野を歩き慣れている皆さんです。

■午後の発表と交流会

午後は、「森の家」と呼ばれている山小屋風の建物の中で、くつろいだ雰囲気以下の3題の活動発表と交流会が行われました。

- (1)「カタクリの繁殖と生態について」
烏川渓谷緑地市民会議植物班の方々
- (2)「オオシカ谷を歩けば♪」
大鹿の100年先を育む会 前島久美さん
- (3)「市民参加による温暖化影響モニタリング」
環境保全研究所 浜田 崇



気持ちよかった烏川渓谷緑地の森の散策



皮をはいだ犯人は…

カタクリについての発表は、午前中の森の案内に続くもので、これまで約10年にわたる生態調査を行ってきた成果についての報告でした。6地点の調査区を設け、その個体数や成長の様子を詳しく観察し記録した結果で、その膨大な記録の積み重ねに参加者の皆さんの多くが感心していました。



午後の発表の様子



10年にわたる調査記録の展示

次の発表では、南信の大鹿村にさまざまな立場の若者が集まり、村の植物調査をしたり、自然観察イベントを企画したりしてきた様子を映像と音楽で紹介していただきました。その内容は、「ひとりひとりの生き方」と「地域社会」がつながるための場づくりを目指しているという、自由で楽しそうな活動でした。

最後の発表は、研究所が取り組んでいる、市民とともにすすめる「温暖化影響モニタリング」についての話題で、その調査内容と集まっているデータの紹介、調査のねらいや課題についてもお話ししました。この調査は今後も息長く続けて行かなければならないと考えています。



大鹿村での活動紹介をする前島さん

■交流の様子

その後は、参加者全員での意見交換となりました。最初に、烏川渓谷緑地周辺の森の現状をさらに深く知るため、地元にお住まいの浅川行雄さんに「入会地の変遷」についてスライドを使った話題提供をしていただきました。ここが、昔から盛んに利用されてきた里山であること、その環境はこの数十年の間に大きく変わってきたことがよくわかりました。そして、意見交換の中では、この「森林エリア」の整備に直接関わってきた方々から、これまでの苦勞が赤裸々に語られました。

一番の課題は、「市民と行政がどうやってお互いの思いを共有し、良い関係を築いていくか」という点にあったようです。当初はお互いに行き違いもあって話がかみ合わないこともあったが、辛抱よく議論を続けてきた結果、ようやくここまでくることができたということでした。

市民の力だけでも、行政だけの判断でもできない整備が、お互いの力を合わせるとここまでできるという、ひとつの成功例ではないかと感じました。

当日はTV局の取材申し込みもあり、後日「エコロジー最前線」というテレビ番組で一日の様子が詳しく紹介されました。共催となっていた烏川渓谷緑地環境管理事務所の佐々木所長さんはじめスタッフの皆様、協力をいただいた烏川渓谷緑地市民会議の皆様、話題提供をしていただいた大鹿村の前島さん、そして参加をいただいた皆様から心からお礼申し上げます。

(企画担当：富樫 均・浜田 崇・蛭間 啓)